

主体的・対話的で深い学びを促す教師の関わり

◇ 児童生徒の姿(例)

学習のプロセス

※ 単元などのまとまりを見通して

ICT(一人一台端末等)の活用

1 学習課題(問題)を主体的に捉えさせ、解決の見通しをもたせる

- ◇ 気付きや考え、学習経験などを基に、学習課題を主体的に見いだしている。
- ◇ 課題について予想を立てたり、解決の方法や過程について見通しをもったりしている。

2 課題解決の過程において、考えを深める学びを保障する

- ◇じっくりと文章を読んだり調べたりし、自分の考えをもとうとしている。
- ◇各教科等における「見方・考え方」を働かせながら、課題解決に取り組んでいる。
- ◇自分や友達の考えを比べたり関連付けたりしながら、考えを吟味している。
- ◇深まった考えを、理由や根拠が分かるように表現している。

3 課題解決の過程を振り返って、学んだことを自覚させ、達成感や学習内容の有用感を得られるようにする

- ◇自身の変容やできるようになったこと等、課題解決の過程や成果を自分の言葉で表現している。
- ◇学んだことを、これからの学習や生活に生かそうとしている。

ゴールの姿【例】



- ・〇〇さんの考えに納得したので、その考えを取り入れたら、△△についてよくわかった。
- ・〇〇の方法は苦手だったけど、単元の途中からコツをつかんで、できるようになった。
- ・〇〇が役に立つことが分かったので、普段の生活でも〇〇を使っていきたい。

授業研究会では、指導目標の達成具合等、児童生徒が「何ができるようになったのか」という視点での協議を行きましょう。

誤答・無解答に至るつまずきの要因を探る

諸調査の分析・活用

1 諸調査の誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かす

- 「解かない」のか「解けない」のか。
- 設問そのものの意味を読み取る「読解力」の不足か。
- 知識・技能の未定着か、思考力・判断力・表現力の不足か。
- 間違いが認められ、生かされ、学習に向うことができる集団か。

● 視点(例)

2 各学校における調査結果の分析を活用した指導改善計画を、全職員で共有し、実践を進める。

- ・「確かな学力育成プラン」を、年度を越えて共有し、検証する。